深津卓也

「もっと上を狙える選手になりたい」
その目は、しっかりと未来を見据えている。
二〇〇七年一月、箱根路を駆け抜けた若きアスリートに注目した。

Takuya Fukatsu

今年一月、駒澤大学玉川キャンパス陸上競技場。快晴。気温十四度、真冬とは思えない暖かな日。「おはようございます」簡単にあいさつを交わした後、午前十時半すぎから練習を開始。入念なストレッチを終え、ジョギング、走り込みを行う。まだあどけなさが残る、一見、普通の大学生に見えるが、走り出したらさすがである。速い。

練習後、陸上競技部「道環寮」に場所を移し話を聞いた。

「小学校のころから走ることが好きでしたが、中学校には陸上部がなくて野球をしていました。そのころ、陸上の県大会に出たときに上位に入賞したこともあって、野球は上手くなかったので、それなら本気で陸上をやってみようかと」

高校は、県内強豪校の農大二高へ進学。走るたびに自己ベストを更新するなど、チームのエースとして活躍した。

「高校時代に監督のおかげでここまで力を伸ばしてもらい、やっと全国レベルでも戦えるようになりました。それで、どうせやるなら駒大というか、箱根駅伝も四連覇していましたし、もっと上を狙える選手になりたいと思い駒大を選びました」

進学後、昨年七月の全日本大学駅伝七区では、区間賞の走りで駒大の優勝に大きく貢献。

「驚きました。うれしかったけど、区間賞まで取れるとは思っていなかったので。両親や高校時代の監督におめでとうと言ってもらいました」と恥ずかしそうな笑顔を見せた。

駒大の練習は、とにかく距離を走り込む。練習量は高校時代のほぼ二倍で、一日平均三〇キロ、ひと月にすると、おおよそ八〇〇キロにもなる。

「精神的にも大変ですが、二日間練習を休むと不安になりますね。もともと足がそんなに強くはないのでけがをしやすいほうですが、練習前にはストレッチや柔軟をして、けがをしないように気を付けています」

今年一月の箱根駅伝では、復権をめざす伝統校駒大にあって、一年生ながらエース区間の五区（山上り）を任された。

「箱根は、やっぱり難しいですね。ほかの試合と比べて沿道のファンが多く、雰囲気が違って注目度も高いので。失敗がしづらく緊張感のあるレースでした。でも、楽しく走れたので良かったと思っています。五区は距離が一番長くてエース区間とも呼ばれているので、他校の選手に引けを取らずに走れたら良かったのですが。順位を二つ上げはしましたが、監督はもう少し行けると考えていたようです。自分としても順位よりも記録のことを考えて走っていたので、ちょっと足りなかったと思う部分もあります」

大八木弘明陸上競技部監督から指導を受ける

それでも、区間七位と健闘し来年のシード権獲得に貢献した。

「駅伝は、長距離の陸上競技の中では唯一の団体競技です。一人が流れを壊せば負けてしまうというレースで、チームワークが必要です。個人競技の延長線上にあって、選手みんなで頑張り、楽しむというものが駅伝だと思います」と駅伝の魅力を熱く語る。

前へ、未来へ、ひたむきに。

「今のままけがをすることなくいけたら、次は二区や九区といった平地のエース区間を走ってみたいです。そんな自分を頭に描きながら、来年の箱根駅伝まで頑張っていきたいです。もちろん、トップで襷（たすき）をつなぎたいですね」

大学生活について尋ねてみると、はにかみながらも「楽しい」と答えてくれた。授業も新鮮で、走っているときを除けば普通の大学生と変わらないという。

「休みには、友だちと一緒に買い物やカラオケ、映画などにも出掛けます。いい気分転換になりますよ。二子玉川の便利なところには、ちょっと驚きました」と調整力抜群といわれるゆえんは、こうした上手な時間の使い方にもあるのかもしれない。

目標としている選手は、大学の先輩でマラソンの前日本記録保持者、藤田敦史選手。

「国際大会に何度も出場していますし、ほかにも速いといわれる選手は何人もいるとは思いますが、藤田さんは速さと、どんなレースに対しても強さがあります。そういうところを見習っていきたいです」

東京に住んでおよそ一年。沼田について尋ねると、懐かしく感じるという。

「こちらに来てからはなかなか帰れないですね。正月、箱根駅伝が終わってから三日間ほど帰りましたけど。当たり前ですが、家に帰って家族の顔を見るとやっぱりほっとします。沼田の街並みはあまり変わることがないので落ち着けますね」

最後に、応援してくれる人たちに対してのメッセージを聞いてみた。

「陸上を始めたときからここまで成長できたのは、家族の支えはもちろんですが、小さなころから目をかけて、練習や試合に連れて行ってくれた周りの人たちや、中学校や高校の先生たちのおかげです。今では、最高の環境で陸上に取り組めるようになり、とても感謝しています。沼田では、ちょっと速いかなと思われてはいましたが、そんな自分が国際大会に出られるようになったというところを皆さんに見ていただけたらと思います。深津は今、何をしているんだろうというのではなく、常に活躍している姿を皆さんに見せられる選手になりたいです」

この後、二月四日に行われた丸亀ハーフマラソン（香川県）では、初めてのハーフマラソンにもかかわらず、力強い走りで六十二分台をマーク。八位に入賞し、その堅実な成長ぶりをアピールした。これからの活躍がますます楽しみである。

レースに備えて調整を行う深津選手

■ プロフィール

ふかつ・たくや　1997年11月10日、下川田町生まれ。川田小ー沼田西中ー農大二高ー駒大。中学校では野球部。高校から本格的に陸上を始め、5000mで高校歴代10位の13分57秒をマーク。昨年7月の全日本大学駅伝では、7区（11.9㎞）を35分38秒の区間賞の走りで優勝に貢献。今年1月の第83回東京箱根間往復大学駅伝競走では、1年生ながら山上りの5区（23.4㎞）を任され、9位で襷（たすき）を受け取ると順位を2つ上げるなど区間7位の活躍を見せた。168㎝、53㎏、19歳。